

国語科 学習指導案

授業者：神戸山手女子中学校 教諭 石元 仁
場 所：341教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35
2. 対 象： 中学1年1組 14名
3. 科目名： 国語
4. 単元名： いにしへの心にふれる～古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える～
（入門期の古文）

5. 授業観について

○生徒観

国語に対して苦手意識を持っている生徒もいるが、授業に対しては比較的前向きな生徒が多い。授業中に積極的な発言を行う生徒はあまり多くはないが、じっくりと考え物事に取り組む生徒は多い。個々の学力差が見受けられるため、きめ細かい配慮を要する。

○教材観

本単元は学習指導要領の指導事項である【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】に対応している。

生徒にとって、本単元は中学校において初めて古文について学ぶ単元であり、原文とあらすじを交互に読み進めながら、『竹取物語』の全体構成に触れられるようになっている。入門期の古文教材として適する教材である。

○指導観

古文に苦手意識を持たせぬよう、古文学習の導入を行い、基本事項を習熟させたい。

- ・ 古文の基本事項を習得させるため、デキタスを使用し、個々の学力に応じた学習（個別最適化）を主体的に行わせ、生徒が自主的に学習に取り組んでいく姿勢を養わせる。
- ・ 音読を反復させ、仮名遣いや特有のリズムになれさせる。
- ・ 古語の意味を理解させ、自らの力で現代語訳を作成させる。

6. 指導計画

- (1) いろは歌・仮名遣いの確認（デキタス「歴史的仮名遣い」視聴学習を指示）…1時間
- (2) 『竹取物語』の冒頭部「かぐや姫の生い立ち」…1時間（本時）
- (3) 『竹取物語』の「蓬萊の玉の枝」の部分…3時間
- (4) 『竹取物語』の「富士山の由来」の部分…1時間

7. 本時の指導目標

- ・ 語感を磨き語彙を豊かにできている。【知識・技能】
- ・ 歴史的仮名遣いや古文独特の表現を習得できている。【知識・技能】
- ・ 他者の音読を聴き、正しく読めているか確認し合えている。【思考・判断・表現】
- ・ デキタスを使って古文を習得・理解しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

8. 教材

教科書『国語1』（光村図書）

資料集『国語便覧（兵庫県版）』（浜島書店）

デキタス（株式会社城南進学研究所）

プリント

9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・デキタスの歴史的仮名遣いについての学習（前時の宿題）について復習する。 ・『竹取物語』について、昔話の『かぐや姫』であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題を、ロイロノートを使用して出題し、生徒に解答させ提出させる。学習の定着度を確認する。なお、定着度の低い生徒には、再度デキタスで振り返るよう指示する。 ・まんが日本昔話や au のコマーシャルを例に出し、昔話の『かぐや姫』をイメージさせる。 ・他の昔話も紹介し、古文を身近なものとして感じさせる。
展開 ①	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の原文をロイロ送信で受け取る。ペアワークで音読し合い、疑問箇所印を入れる。 ・QR CODE を使用し範読を聴き、仮名遣いのルールや区切れを確認する。 ・教師の指示に従いながら、音読を行う。 ・個人練習を行う。 ・音読をロイロ提出するよう指示を受ける。 ・うまく音読できるようになった生徒はロイロ提出を行う。 ・クラスメートの音読を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の原文をロイロ送信し、音読の際の疑問点や区切れ目の分からないところをチェックさせる。 ・竹取物語の冒頭部の範読を QR CODE を使用させ聞かせる。 ・範読を聞かせ、個人練習させる。練習時には、机間巡視を行う。 ・生徒の読み方が正しくない場合は、正しく修正する。ハ行転呼音、「む」「うつくしう」「ゐ」に注意をしながら、その場で間違いを指摘し、直させる。 ・ロイロノートに提出箱を作成し、提出の指示をする。 ・音読を提出した生徒の中から1名の音読データを選び、聞かせる
展開 ②	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・デキタスで学習内容の確認を行う。 ・「古文の読解」の動画授業をスクリーンで視聴する。 ・「古文の読解」の動画授業の復習として、配付されたプリントを埋め、現代語訳の仕方や古語特有の表現を知る。 古文の主語の区別がつくようになる。 現代語と古語で大きく意味の異なる言葉について正しく意味・イメージを理解する。 時代と共に言葉の持つイメージの変化を実感する。 ・「古文の読解」の動画授業一度で理解できた生徒は○×チェックの学習を行う。 視聴したがよく理解できなかった生徒は、もう一度 iPad を用いて動画授業を視聴し、理解できた上で、○×チェックの学習に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デキタス「古文の読解」の動画授業視聴後、プリント配付。生徒が埋め終えた後、助詞の補い、古典の単語の知識などの説明をする。生徒のプリントにも記入させる。 ・特に主語の後の助詞が省略されるケースが多いことを注意喚起する。どれが主語かわからない生徒には、述語を見つけて、主語に助詞「が」を補うというヒントを与える。 ・ハ行転呼音、「む」「うつくしう」「ゐ」など、特に覚えてほしいものを印象づける。 ・「あやし」「うつくし」「ゐる」は現代語とはイメージの異なる古語であるため、特に覚えるよう、注意を払い説明する。他には「ながむ・眺める」などもあり、その例をあげ、時代とともに言葉の持つイメージが変わることを伝える。 ・個別最適化学習の教具として活用する。生徒ごとに解くスピードが異なるため、全員が「古文の読解」の○×チェックを終えた生徒は、先に進んで学習させ、「古典の単語」⇒「基本問題」⇒「チャレンジ問題」⇒「キミ問」の順で学習するよう指示する。 基本内容は確実に、応用内容は学習の進んでいる生徒に対して促していく。 ・途中までしかできなかった生徒へ、授業終了後、先に進むよう指示する。
まとめ	4分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りを行う。 本日の復習について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史的仮名遣い」「古典の単語」「古文の読解」「正しい音読」について、生徒に学習の振り返りを行わせる。 ・音読の課題確認と生徒自身が学習の不足部分と感じている点を、デキタスを使用し、復習するように促す。 ・「古典の単語」⇒「基本問題」⇒「チャレンジ問題」⇒「キミ問」の順で学習することを確認させる ・各自の補強ポイントをまとめた「キミ問」を必ず学習するよう指示する。